

## 教育

### 【余田小学校】

○明治5年に学制が公布され、全国を学区に分け、それぞれに大学校、中学校、小学校を設置し国民皆学を目指すこととなった。このことにより、明治6年字松堂（小平尾）の松村嘉太之助宅を仮教場として開設したのが学校と名の付く始まりである。

○開校後約半年で「字一里塚堀道ト坂本道ノ十字形ヲナス西側」（元ダイヤモンドローズ付近）に校舎を建てたが、これは岡田彦太郎氏の寄付のよるものであった。しかし間もなく校舎が破壊し、正蓮寺・明顕寺を仮教場として僅かに授業を行っていたところ、明治13年に「八幡宮鳥居ノ西側ニシテ今出道ト中郷道ト挟シタル土地」に茅葺の校舎を新築した。

○その後明治16年現在の余田保育園の場所に校舎を新築し、明治21年増築、明治24年4月小学校令にもとづき尋常小学校となり、明治31年4月修業年限4ヶ年の高等科を併置し余田尋常高等小学校となった。以上の時系列は「余田小学校沿革史」（明治5年～大正4年）によるが、「柳井市立余田小学校創立百年記念誌」には尋常小学校となったのは明治20年とある。

○明治40年、現在の場所に新校舎を建設したいと、余田村長から山口県知事に申請した。その文面には「余田尋常高等小学校校舎改築ニ付申請 本村立余田尋常高等小学校ハ本村字松堂ニ在リテ該校舎ハ二階附ニシテ明治拾貳年ノ造築ニ係リ明治三十四年更ニ壱棟ヲ造築セシモ尚ホ教室狭隘空気ノ流通悪ク不完全ナルニヨリ本村中央高燥ナル土地字名合ニ改築スルコトニ村会ノ議決ヲ經候事御認可成被下度別紙書類相添ヘ此段及申請候也」とあり、教育環境の改善を願っての移転であった。

この申請に関する書類によると、

- ・設置区域内の学齢児童数 394人（男206人、女189人）
- ・現在就学児童数 330人（男179人、女151人 内13人が畑分教場）

とあり、当時の就学率がおよそ8割強であったことがわかる。

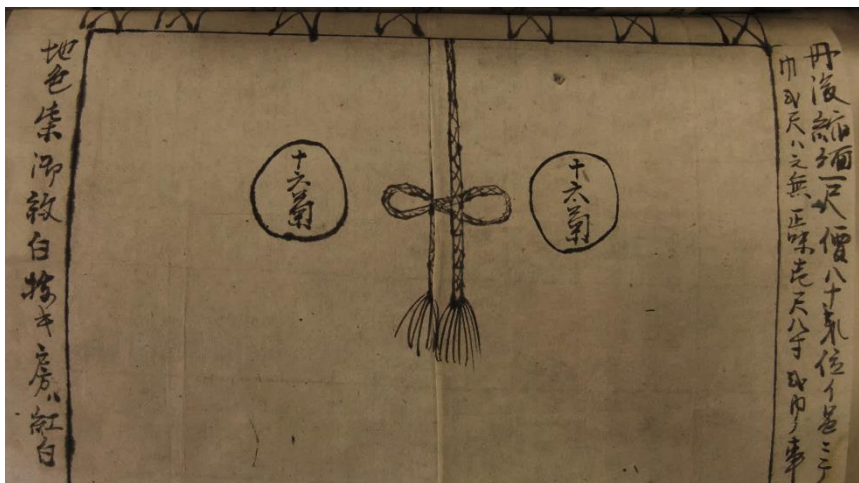
- ・建築総額見込み 8,900円

明治42年に校舎が竣工し、校地総面積4,075坪の中には桃園、柑橘園、柿園等が備わっていた。この土地は長尾三輔氏の寄贈によるもの。また旧校舎（現余田保育園の場所）は教員住宅とされた。

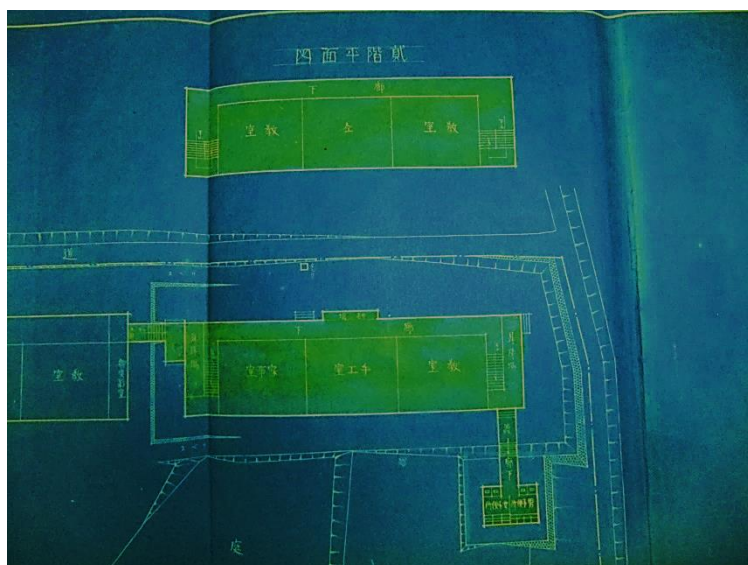
○昭和8年に普通教室3室、特別教室3室を増築し、これがのちに余田中学校の校舎となる。



【昭和33年撮影（右側は昭和8年に増築）】



【御真影室（設計図）】

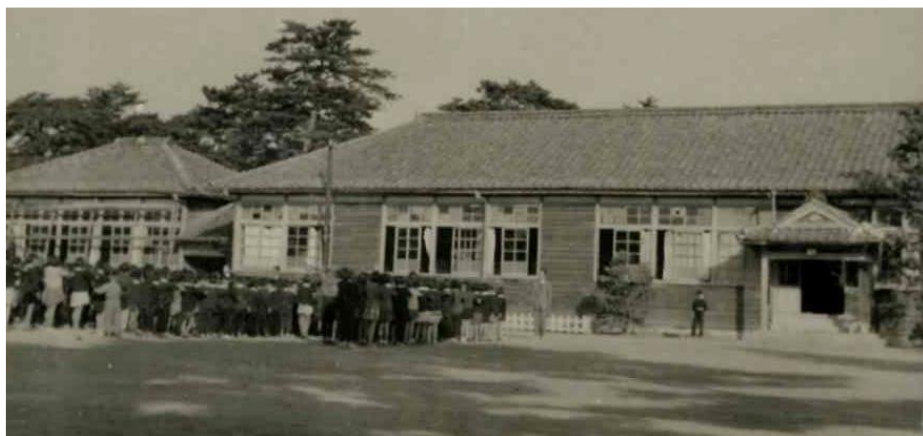


【昭和8年 余田尋常高等小学校増築設計図 配置図】

○昭和16年国民学校令公布により余田国民学校と改称した。この年校舎補強工事が行われた。

○終戦を迎えたのちの昭和22年に余田小学校と改称し、高等科が余田中学校となった。昭和23年には余田小学校PTAが発足。昭和25年講堂を増築し、落成式では中小連合学芸会が行われた。昭和25年中には引き続いて校舎の増築が行われた。

○昭和29年3月31日余田村を含む1町4村が合併して柳井市となったことにより、柳井市立余田小学校となった。昭和35年に鉄筋コンクリート二階建て校舎が完成。昭和45年にプールが新設された。



【昭和35年の建替え前の木造校舎 左側の棟が余田保育園に曳家された】



【昭和52年撮影（左側が講堂 右側木造が中学校）】

○平成12年に元の中学校の位置に体育館が新設され、講堂は解体されたのち、平成13年に特別教室棟が設置された。平成22年に耐震校舎（普通教室棟）が完成し、平成28年から鉄筋コンクリート校舎が解体され、全国的にも珍しい公民館と出張所、簡易郵便局を併設した新校舎が平成29年2学期より供用開始された。



【平成29年9月2日 余田小学校管理特別棟及び余田公民館供用開始記念式典】

### 【余田小学校畑分校】

○明治13年永福寺を借りて畑分教場としていたものを、明治15年校舎を設立して余田小学校畑分校と称するようになった。明治31年本校が余田尋常高等小学校に改称されるに伴って余田尋常高等小学校畑分教場と称することとなった。

○大正4年に校舎が新築された。

○義務教育が6年制になって以降、5・6年生は余田本校に通うが、北部で本校に遠いため、田布施町小行司の小学校へ通う児童もいた。

○教室は一室で1年生から4年生までが一緒に学んだ。年中行事の運動会などには全員が1時間ほどかけて余田本校まで歩いた。

○昭和38年3月の市議会で、余田小学校畑分校と柳北小学校黒杭分校を廃し、柳井市立柳北小学校を新設することが議決され、4月1日余田小学校畑分校は廃止された。4月8日、畑分校児童の柳北小学校転入のための入学式が挙行された。

○児童は、昭和38年度は柳北小学校黒杭分校に通い、昭和39年4月から現在地に新築された柳北小学校へ通うこととなった。



【余田小学校畑分校】



【余田小学校畑分校跡地記念碑】

### 【余田中学校】

○昭和22年4月1日教育制度改革に伴い、旧国民学校の2階建校舎を譲り受け余田中学校が発足した。初代校長 小野清一氏。5月1日に始業式及び入学式が挙行された。

- ・1年（国民学校卒） 男24名 女15名 計39名
- ・2年（元高等科1年修業） 男14名 女9名 計23名
- ・3年 男9名（内3名は青年学校より転入） 女8名 計17名

○昭和23年度から、郷土出身の海外渡航者へ向けて郷土便りを発信していた。

○昭和26年度に校歌が制定された。この年の10月に襲来したルース台風で校舎の屋根が破損する被害を受けた。

○昭和27年度の記録に、農繁期休業が6月と11月に1週間ずつ取られている。

○昭和27年12月招魂場を開墾して新運動場（通称Bグラウンド）が完成した。翌28年5月に運動場開きとして中学校野球大会が催された。

○昭和29年4月1日柳井市誕生に伴い柳井市立余田中学校となる。

○昭和30年度は9月に「台風22号による被害」10月に「台風23号による被害甚大」とあり、自然災害の多い年であったようである。

○昭和33年に砂場が完成。移動式バスケット台も購入され、翌年には鉄棒、ピアノと徐々に設備や備品が整っていった。

○昭和38年技術科室校舎落成。（現在用具倉庫として利用）

○昭和45年度には小学校のプールに加えゴミ焼却器、体育クラブの更衣室、1階廊下の手洗器、自転車置き場、温室と次々建設された。

○昭和50年度、プールサイド周辺舗装や小平尾坂本線の通学路の舗装がPTAによる奉仕作業で進められた。

○校舎の老朽化、生徒数の減少などから、昭和55年度より中学校の改築に関し懇談会が繰り返しもたれるようになった。学校地の選定等を経て昭和59年から校舎建設を開始し、昭和60年4月に、現在の柳井西中学校の場所に建てられた新校舎に移転して、余田中学校として最後の一年度を送った。この年、最後の余田小学校と中学校の合同運動会が開催された。翌昭和61年4月、それまで柳井中学校区であった新庄地区からの新入生を迎え、新設の柳井市立柳井西中学校が開校した。

○昭和46年に道徳教育研究の指定校に選ばれたのをきっかけに情操教育の一環として俳句づくりの取り組みが始まった。答辞の中で卒業生一人ひとりが自作の俳句を詠みあげ、また在校生も送辞で俳句を詠む「俳句卒業式」は余田中学校の伝統であり、現在の柳井西中学校へ引き継がれている。



【昭和41年余田小学校・中学校合同運動会】



【昭和60年余田中学校】

#### 【余田保育園】

○余田小学校の敷地を利用して昭和25年4月1日から開設。初代園長 富田慧泉氏。翌昭和26年4月に県知事より児童福祉施設、設置認可を受けて正式に開園し、昭和26年4月18日開園式が行われた。

○開設当初は利用者が米を持参し、給食に充てていた。

○昭和35年、小学校校舎の建替えに伴い、木造校舎の一部を曳家して保育園の園舎とした。



【昭和42年の余田保育園】

○昭和50年4月9日に社会福祉法人余田保育園として法人認可を受け、定員60人で保育事業を進め、現在に至る。ふれあいのある温かい家庭的な雰囲気の中で、自然に触れ、健康的な体力作りに励み、心身ともに自立を目指し、豊かな心と遊びの天才が育つ保育園であり続けることを保育理念とする。

○余田保育園内に余田児童クラブが平成12年から開設、運営されている。

#### 【戦前・戦時中～戦後期の学校生活】

○登校前、牛にえさを食べさせるのは子供の仕事だった。

○昭和16年、世界大戦が始まると、余田小学校は戦争色で塗りつぶされたといっている状態になった。男子生徒（5、6年）は、運動場での朝礼後、担任から、農家への手伝い、農園の手入れ、防空壕掘り、松やニ採取等の肉体作業を指示され、雨の日以外は教室での授業はほとんどない状態だった。

特に昭和19年の秋から冬にかけて、男子は院内の上の松林から杭木出しに毎日働いた。女子は現余田保育園の所にあった青年学校でムシロ織りをやっていた。

周辺の小学校では、そうした肉体労働はあまりなかったとの事で、色々と考えさせられる教育環境であった。

こうした小学校の働きに対してか、昭和17年、18年に山口県知事熊谷憲一が来村し、村役場にて学校の活動を賞賛している。

○小学生は登校時に稲の害虫取りをしていた。100匹取ると1銭がもらえた。

○小学校でウサギを飼育し、毛皮を軍需品としていた。児童が肉を食べることができた。